

「志教育」実践事例

ボランティア活動, 及びみやぎ高校生フォーラムへの取り組み

宮城県宮城広瀬高等学校

- 1 目的
 - ・ボランティア活動をとおして, 地域貢献に努める。
 - ・宮城広瀬高校としてどのように地域貢献に取り組んでいるのかを, 生徒自らが調べ, ポスターにまとめ, 動画を作成する。
 - ・コロナ禍においてできる活動を探し, 取り組む。
- 2 実施学年
 - ・全学年
 - ・生徒会執行部の生徒
- 3 実施日 通年
 - 令和3年7月15日(木), 7月28日(水), 8月18日(水), 10月12日(火)
 - 令和4年2月2日(水)～22日(火)等

4 ボランティア活動の事例とみやぎ高校生フォーラムへの取り組み

本校では, 奉仕活動部という, 部員が通年で様々なボランティア活動に取り組む部活動がある。更に, 別な部活動に所属しながら, ジュニアリーダーなど, 校外のボランティア活動に取り組んでいる生徒もいる。本校には学校外学修として単位認定の制度もあるため, 年度始めにボランティア活動に取り組みたい生徒全員に手帳を発行し, その活動を記録させている。今年度は101名の生徒が希望し, ボランティア活動手帳を発行したが, 新型コロナウイルス感染症の拡大をうけ実施することはできなかつた。また, 令和元年度からは“読み聞かせボランティア”も実施しており, 今年度も保育園や児童館での活動を予定していたが, こちらも新型コロナウイルス感染症の心配から実施できなかつた。奉仕活動部や放送部の部員たちが例年参加している外部の行事や校地外での清掃活動も全て中止となり, 生徒たちは校内での活動のみに取り組んだ一年間となってしまった。一方で昨年は実施できなかった仙台市社会福祉協議会主催の「2021夏のボランティア体験」などは募集人数が少ないながらも実施され, 本校でも申込を行い, 体験に参加することができた生徒もいた。参加した生徒からは「初めて参加し, ボランティア活動というものを実感することができた。また機会があれば積極的に参加したい」といった感想があった。意欲はあるものの, 昨年度に引き続き実践の機会が無く, 実際にボランティア活動を経験した生徒がいなくなってしまう可能性もあり危惧している。また, 地域との関わりで世代を超えた人たちとの交流を持つ場がなかつたことも非常に残念である。

(1) ボランティア活動の事例

① 奉仕活動部の取り組み

- ・校地内外の除草や花壇の手入れ
- ・ドナルドマクドナルドハウスにおける整備や清掃
- ・近隣の児童館, 保育園での読み聞かせや児童とのふれあい
- ・近隣の市民センターなどのイベントスタッフとしての活動
- ・盲導犬協会や仙台七夕まつり, 光のページェントなどの募金活動など
- ・特別養護老人ホームへの訪問

→ 例年, 活動していた取り組みであるが, 今年度は校地内の除草や花壇の手入れのみの活動であった。

② 部活動や委員会の取り組み

- ・硬式野球部、バスケットボール部、吹奏楽部、サッカー部、生徒会執行部などが自主的に通学路周辺のゴミ拾いや落ち葉掃き、雪かきなどを行うようになって10年以上経過している。
→ マスクやティッシュなどのゴミを拾うことで、感染症の心配がされたため、昨年度に引き続き、今年度の清掃活動も実施を見送った。
- ・毎年、市民センターでのイベントに書道部・写真部・美術部による作品展示や、卓球部・書道部員による小学生対象の技術指導も行っている。
→ 昨年度は書道部・写真部・美術部による作品展示のみの実施だったが、今年は卓球部による技術指導が夏休み中に実施された。館長さんからは毎年楽しみにしているとの言葉を頂いた。
- ・陸前落合駅での「防犯・交通安全街頭キャンペーン」に地域の方々と参加。
→ 本校生徒が通学で利用している陸前落合駅で警察や地域の方々と一緒に防犯・交通安全の呼びかけを行った。朝早くからの活動だったが、元気に声を出して呼びかけを行っていた。



③ 読み聞かせボランティアの取り組み

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から受け入れ可能な施設がなく、残念ながら生徒たちの活動はごく一部に限られた。

④ 学校説明会でのボランティアスタッフとしての取り組み

- ・中学生対象の本校での学校説明会において、約110名の生徒が希望し、企画・運営を行った。「自分たちの学校の良さや特色を中学生に伝えたい」、「中学生の時に参加した学校説明会が入学のきっかけになったので今度は自分が伝える側で頑張りたい」など参加した理由は様々だ。校舎案内や部活動見学時の説明など、中学生も緊張せずに学校の様子を知ることができたと好評だった。企画段階では不安だったが、成し遂げた後は充実感にあふれた様子だった。

(2) みやぎ高校生フォーラムへの取り組み

今年度も各校で作成したポスターを、web上で鑑賞形態での実施となり、参加を楽しみにしていた生徒会執行部の生徒たちは残念がっていた。地域や校外での活動がほとんど実施できなかったことから、本校の特色である“ボランティア活動”の取り組み事例が少なく、ポスターの制作にも苦勞していたようである。しかし、映像での参加ということから、生徒会執行部の生徒達が、本校の特色や取り組みを一生懸命に伝えようとする姿や、動画のエフェクトを工夫することでより伝わりやすくなるように工夫する姿が見られた。

5 今後の課題と考察

昨年度以降、新型コロナウイルス感染症に関わる臨時休業や、行事の縮小・中止が相次ぎ、例年の取り組みがほとんどできず、生徒たちに浸透してきた活動がこのまま途切れてしまうことが心配である。生徒たちの中には意欲的に学校外での活動に取り組む者もおり、ボランティア手帳の発行数も毎年、一定数を維持している。ボランティア活動が本校の特色として根付いているところに、その活動の場がなかったことが残念である。また、余りボランティア活動に興味の無かった生徒が実際に体験することで得られる変容や自己有用感を醸成する機会も失われてしまっている。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は避けられず、生徒たちの活動の場をどのように作り出せるのが課題である。今後は、ポートフォリオへの記録を含め、定期的な振り返りの時間を設定し、自己肯定感や達成感を感じられるような機会を増やしていきたい。